

第77号  
平成19年2月16日

高二D 難波将広  
高二B 前中公瑠

# 読書三昧

甲南中学・高校  
図書館  
図書委員会  
芦屋市山手町  
31番3号

## 文化祭活動報告 ミステリー作家 浅黄斑氏 講演会 高二D 難波将広

一〇〇六年十一月三日の甲南高校文化祭で私達、図書委員はミステリー小説作家である浅黄斑(あさぎ まだら)さんを招いての講演会を行った。講演会の実施に当たっては、高三の企画を受けて高二の委員が中心となっていた。自分で一から企画を考え考え、実行するということは思った以上に困難なことであると同時に面白いことでもあった。言われたことをやるのではなく、まずは自分のすべきことを考えながら形の無い企画を形にしていくのは怠惰に日々を過ごしていた自分にはいい刺激となった。

この講演会に参加された人も参加されなかった人も少しでも時間に余裕があるならば是非とも一読していただきたい。

事の発端は一学期最初  
の図書委員集会だった。  
副委員長というなんとも  
中途半端な上に酷使され  
る役職に任命された私は  
早速、受任で忙しいと言っ  
て今年には図書委員として  
殆ど働けなかった委員長  
より企画の指揮を任せられ  
た。

図書委員の企画で大仕事  
と言えは何と言っても  
文化祭でイベントを起こ  
すことである。私たち図  
書委員は2年周期で本を  
集めて古本市を開くこと  
になっているのだが、残  
念ながら去年がその周期  
の年で今年には自分でイ  
ベントを企画しなければなら  
なかつた。

図書委員集会の中で縮  
小版古本市やブック喫茶  
など様々な意見が出たが、  
最終的に決定されたのは  
著名な作家を招いて講演

会を開くという困難かつ  
非常に楽しまないものだっ  
た。

だが、実際にこの企画  
を実行に移していくのは  
二期が始まってからに  
なってしまう。

私は本日に文化祭まで  
に作家を見つけて講演会  
を開けるかどうかに軽く  
焦りを覚えたつも、国語  
科かつ図書館長の山西先  
生に小説家の友人がいる  
というのを聞いてミス  
テリ小説作家の浅黄斑  
さんを紹介して頂いた。

ここまではスムーズに  
物事が進んだのだがそこ  
からが大変だった。今ま  
でまったくやったことの  
無いことを現実にやらな  
ければならなくなったの  
だ。

それまでは最悪何もし  
なくても良いという甘っ  
たれた選択肢もあったが

浅黄さんに出演依頼の電  
話をかけては、もう引き  
返せなくなっていました。  
推理小説を書いている  
作家という個人的に非常  
にお硬いイメージがある  
人のところへお忙しい時  
に電話をして出演を要請  
するというのは存外に緊  
張することだった。

さらに読書三昧の編集  
も平行して行っていた私  
は急遽、この文化祭の広  
告を載せることになり二  
学期の初めはかなり忙し  
かった。

そして、出演の依頼を  
快く受け入れてくださっ  
た浅黄さんと電話でやり  
取りをして大まかな時間、  
場所、準備の打ち合わせ  
は終わり、残りは細かい  
打ち合わせだけとなった  
ところで、作家とはどん  
な生活をしているんだろ  
うかという好奇心もあり

一度ご自宅へお邪魔させ  
て頂くことになった。  
同じ図書委員のH君を  
半ば強制的に連れてにし、  
神戸地下鉄を利用して浅  
黄さんの住む西神中央ま  
で行ってきた。

浅黄さんの家はなんと  
いつか、豪邸だった。自  
分があまり豪邸というモ  
ノを知らないというのも  
あるかもしれないが私の  
主観から見れば浅黄さん  
の家は洒落た造りの豪邸  
に見えた。

「作家というのはどの  
程度儲かるのだろっか？」  
という失礼なことを考え  
つつも浅黄さんに挨拶を  
述べて家の中にお邪魔さ  
せていただいた。  
初めて会った浅黄さん  
は山西先生の友人だけあ  
り、白髪交じりの壮年の  
男性だった。少し気難し  
そうに見えたが、山西先  
生いわく照れ屋なそうだ。  
出された普通の午後の  
紅茶とシックなコップの  
ギャップがおかしかった。  
そんなこんなであり、よ  
うやく文化祭当日には講  
演会のカーテンを開く事  
が出来たのだった。

穏やかな成熟した大人  
の渋みを感じさせる声で  
浅黄さんは様々な事を語っ  
てくれた。

ペンネームの由来の話  
から拾うばい出版業界の



講演会での様子

# 浅黄斑氏 プロフィール



1946年神戸市生まれ。92年に著作『雨中の客』で第14回推理新人賞でデビュー。

著作はミステリー

が多いが時代小説の執筆もおこなっている。著作の内の何本かはドラマ化もされており、榎木孝明主演の『篤警部補の事件簿』のシリーズなどが有名。地元の兵庫県が作中でよく取り上げられており、阪神大震災から復興した兵庫県をミステリースポットとしてアピールしている。

話まで作家という独特な職業ゆえの面白さ、苦労が感じ取れた。その中でも特に個人的に面白かったのは『作家の収入』と『作家の浮き沈み』の話である。一つの目的『作家の収入』であるがこれには直接的なもの間接的なものがあるらしい。直接的な収入とはちよつとした文章を出版社に原稿用紙一枚につき5千〜数万円くらいで送り収入をあげるものであり、『間接的な収入』とは長い時間をかけて本を一冊仕上げて上手くヒットしたときにそれを多数の出版社

が出版したり、ドラマ化をしたりすると印税などで何もしなくとも収入を得られるといったものである。しかし、本を一冊書き上げるのは大変な作業であり、なおかつ本が売れるとは限らないので確実に儲かるのは『直接的収入』のほうらしい。かといって『直接的収入』だけだと生活が苦しくなるのでハランスが難しいようだ。次に『作家の浮き沈み』である。

これはたとえ面白い文章を書く力が有ろうがそれだけではダメだということ。浅黄斑自身も元々作家として何度かデビュー

するといつかとをしている人もいるよつただ、それでも浅黄さんが「どんな苦労があるにせよ自分のしたいことを出来るのならそれが本望である」といっている。またまた

人生経験の少ない自分にとっては実感のわかない話も多かったが作家に限られず、このことは全ての人のことと言える言葉だと思つた。今回の講演会を通して月並みだが非常に多くのことを学べた。講演会だけでなく、そこに至るまでのプロセスからも大変だったか自分何が出来たかを採るとい自分の人生の命題に、少しかもしれないが迫る事が出来たよつと思つた。



最後に、講演を快く引き受けてくださった浅黄さんと今回の講演会を開くにあたって協力してくれた図書委員をはじめとする皆に感謝の意を述べたい。本堂にありがとうを言いました。

## 講演会アンケート集計結果

世代	10代：13人	40代：6人	50代以上：2人
性別	男：17人	女：3人	(未記入1人)
所属	甲南生(高1：3人 高2：6人 高3：3人)	保護者 7人	その他 1人
<b>&lt;感想&gt;</b>			
1、今日の講演会は充実していたか？			
・充実していた 12人		・まあまあだった 7人	
・つまらなかった 0人		(未記入2人)	
2、浅黄斑さんのことは事前に知っていたか？			
・知っていた 7人		・知らなかった 11人	
(未記入1人)			
3、講演会の内容について理解できたか？			
・よく理解 10人		・だいたい理解 10人	
・よく分からなかった 0人		(未記入1人)	
4、また講演会があったら行きたいと思うか？			
・また行きたい 11人		・気が向いたら行く 9人	
・行きたくない 0人		(未記入1人)	

## 図書委員活動報告

### 図書委員選書

高1D 高野 匠史

いきなり選書の話をすると言われても正直言つて言つことなどほとんど無い。

「いい経験になりました」と嘘を言つてもしょうがないのでさつさと済ませて入れた本の紹介に入ろうと思つた。

具体的をやつたことは二箇のジュンク堂に行つ

そのとき来ていたのが難波と藤本、あと山西先生と中津井先生。(もし他にいられていたら先生方がいらしたら失礼)

今回は例年よりも遅い時期にあつたので仕方なかつた部分もあつたのだろつがいくらなんでも図書委員3人(美濃図書委員は60人近くいるのに

もかがわらず)は少なすぎるだろつと思つた。が、全然問題なかつた。

むしる選んだ本はその後審議されるので多人数で行くほつが作業全体の時

間は逆にかかり非効率的だ。自分で選んだ本が入りやすい方が士気もあがるし、そんなにもたくさん図書館員がウロウロしていたらシンクウ堂だって迷惑だろう。

それでは入れた本を紹介していく。今その本が手元に無いので本の題名で調べて探してほしい。



「歴代天皇のカルテ」  
著者 篠田達明  
分類 288・4  
出版 新潮社

日本国内で代々栄えてきた大皇家、彼らそしてその時代に栄えた人々の間で流行った病気を探る一冊

また医学が発達していなかったころの人々が感じた病気への恐怖、当時の宗教などの思想の話など医学に興味がある人も歴史への造詣をさらに深めたい方にもおすすめです。一冊、やや固め。



「まっとう勝負!」  
著者 橋下徹  
分類 304  
出版 小学館

行列のできる法律相談所でおなじみの橋本弁護士のコラム集。

内容が簡潔かつ明快で、この本を入れるために選書にいったというのが実情。彼の一辺的な考えといえはそれまでだが口はかりの知識人の講釈3時間よりもこれのコラム1つ読むほうがよほどためになった。文章自体はわりと軽め。自信を持って薦める。



「世界のしくみ」  
著者 細川徹  
五月女ケイ子  
分類 049  
出版 扶桑社

これをいれたのは自分ではないが、とにかく面白いのでぜひ一読を。

「ももんが対 見越入道」  
著者 アダム・カバット  
分類 388・1  
出版 講談社



日本の妖怪についてまとめた本。妖怪に興味あるならとりあえず読むほうがいいと思う。(時間がないので読めなかった!)

NDC	書名	著者名	出版者
124.2	絵で読む「老子」無為を生きる	長尾みのる	小学館
159	藤原正彦の人生案内	藤原正彦	中央公論新社
159	3日で運がよくなる「そうじ力」うれしい変化続々!	舛田光洋	三笠書房
159.8	踊る名言	丸茂潤吉	リーダーズノート・パブリッシング
319.5	アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか	佐藤惟行	ダイヤモンド社
361.6	右翼と左翼 幻冬舎新書	浅羽通明	幻冬舎
Y	Run! Run! Run!	桂望実	文芸春秋
Y	一瞬の風になれ 全3巻	佐藤多佳子	講談社
Y	パスジャック	三崎亜記	集英社
Y	成功学キャラ教授 4000万円トクする話	清涼院流水	講談社
Y	自転車ツーキニストの憂鬱	疋田智	ロコモーションパブリッシング

2006年度の図書委員選書は上記など39冊

## 『日本沈没 第二部』



一九七三年に刊行された第一部では、地球内部のマントル対流の様相が変わり、日本列島全体が海中にのみ込まれ、日本国が消滅するという異変を描いていた。

刊行されたその年は、第4次石油戦争と石油ショックの発主した年であった。シヨッキングなタイトルが危機意識をあり、ベストセラーとなったが、単に近未来ハニック小説というだけではなく、地球科学的ロジックを使うた科学小説、難民受け入れをめぐる外交交渉を描いた政治小説として読むことができた。

また、国土を失った1億1千万人を日本から脱出させるシミュレーションからは、日本民族とは

どんな民族だったのかを考えさせられた。ひとつの「異変」を想定して、そこから多方面にわたる影響を扱って、興味は尽きなかった。

その後の国際情勢の変化にもなると、第二部がいつどのような構想でまとめられるか、待望する人は多かった。著者の年齢から、未元のままになると思われたが、谷甲州氏との共著一〇〇六年八月、第二部は刊行された。

「異変」の二十五年後、日本国は政府を持ち、外務省をロンドンに農水省をターウィーンに置いていた。巨大な人工の浮島を作り、日本人の居住地にしようとしている。日本列島が存在していた海域に係留させようというつもりだが、周辺諸国との緊張が高まっている。環境影響評価の調査が進むにつれ、地球の寒化が迫っていることが明らかになり、計画の大幅な変更で、

世界中に警告する時期について苦慮していた。日本人論としては、国土を失っても、日本人としてのアイデンティティを維持継承させようとする愛国主義と、世界と共存するコスモポリタニズムの両論が対立し、決着がつかない。この論争は作中の人物間の対立であるが、両著者の日本人観の違いでもある。また、歴史的なユダヤ人のシオニズム・賢哲会議の行き方と、アジアにおける客家を範とする考え方に相当すると思われる。

後半は、世界の中で日本人はどんな貢献ができるか、愛国心とは何か、いままさに問われている問題を提起しながら、第三部に期待を抱かせる終章をむかえる。



『日本沈没 第二部』  
著者 小松左京  
谷甲州  
分類 Y  
出版 小学館

# 図書委員のオススメ

## 「手紙」 ?年?組 P.N 図書委員

(あらすじ) 武島剛志「兄」は直貴「弟」に大学に行くて欲しかった。でも、お金が無かった。そこで剛志はある家に入り、お金を取るうとしたが年老いた婆さんに見つかり、殺してしまう。そして、強盗殺人罪になった。剛志は勿論、刑務所入り。弟の直貴も、色々な所で苦しんでいく…。剛志の楽しみは刑務所で読む、直貴との手紙だった。

(紹介) 今、山田孝之・沢尻エリカ・玉山鉄二が主演の映画で、話題になった本です。この本を読んで学べる事が、たくさんあると思います。例えば、剛志の犯した罪のせいで、弟の直貴までもが苦しめられます。本当の事を言ってしまうと雇ってくれるはずが無いと認識した直貴は就職活動での面接でも嘘をついてしまいます。結局、それがバレてしまって「信頼関係」を無くしてしまいます…。この本が伝えたいのは、「信頼関係」だと思います。家族の一人が犯した罪を、兄弟あるいは親などとしていかに責任をとるべきか、信頼関係を取り戻していくか。この本は、それを伝えてくれています。皆も一度、考えながら読んでみてください。



### 手紙

分類：Y,ひが  
出版：毎日新聞社  
著者：東野圭吾

## 目次

- 文化祭活動報告 ミステリー作家 浅黄斑氏 講演会 (1)
- 図書委員活動報告 図書委員選書 (2)
- 社会科 三浦隆先生 『日本沈没 第二部』 (3)
- 図書委員のオススメ (4)
  - ・「Eメールと探偵たち」
  - ・「手紙」
  - ・「天使の卵」

## 「Eメールと探偵たち」 中一 d組 永島 寛之

この本のあらすじは、Eメールがおばさんの家に行く電車の中で、お金を盗まれてしまうというものです。Eメールはその男を追跡する途中に仲間を作り、いろいろと作戦を練って最後にはその男を捕まえます。

この本はEメールや仲間たちの団結力や、根気強さなどが感じとられ、背の高い犯人に見つかりそうになつたりするはらはらどきどきする感じも楽しめます。

ぼくはこの本を読んで、仲間との団結することの大切さや、信頼などを楽しく、また面白く学べたと思います。



### Eメールと探偵たち

分類：y,ケス  
出版：岩波書店  
著者：エーリヒ・ケストナー

## 「天使の卵」 ?年?組 P.N 図書委員Mk

この本は、恋愛のお話です。こちらも今、映画(市原隼人・小西真奈美・沢尻エリカ主演)で話題となっています。

(あらすじ) 19歳の歩太は、電車の中で八歳年上の精神科医・春妃に一目惚れをしてしまう。春妃は高校時代のガールフレンド、夏姫の姉だった…。精神に異常をきたしている歩太の父の担当でもあった春妃とは趣味・音楽・芸術など話をする機会が増え、お互いの心が近づいてくる。春妃は過去に彼氏を亡くしており、やがて歩太の父も自殺する。精神科医の自信を無くした春妃の心を支えたのは歩太だった。しかし、春妃は歩太と付き合うことに対しても心が動揺していた。

(紹介) この本の一番最初に書かれている「最初の機会に恋を感じないなら、恋というものは無いだろう」読んでいくと、この意味がわかると思います。是非、読んでみてください。(「天子の卵」は「天使の梯子」へ続きます。)



### 天使の卵

出版：集英社  
著者：村山由佳

## 編集後

卒業式ギリギリになりましたが、今年度最後の読書「味発行」です。今回の読書「味」を読まれる方々は今どんな気持ちでいらっしゃるでしょうか？自分に関わりがあるか否かには関係なく「終わりと」というモノを感じていると思います。私たちにできるのはただ今を生きる事だけです。そんな中でこの読書「味」を少しでも記憶に残して頂ければ幸いです。